

作成日：2012年5月21日

改訂日：2021年1月01日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : ソーダライム
パーツNo. : E894973-A
会社名 : 株式会社HIRANUMA
住 所 : 〒310-0836 茨城県水戸市元吉田町1739
担当部門 : 品質保証部
電話番号 : (0120)47-6411 FAX番号 : (029)240-0381

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体 : 区分外
自然発火性固体 : 区分外
自己発熱性化学品 : 区分外
水反応可燃性化学品 : 区分外

健康に対する有害性

急性毒性（経口） : 区分外
皮膚腐食性・刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分1
特定標的臓器/全身毒性（単回暴露） : 区分1（呼吸器）

絵表示またはシンボル



注意語喚起 : 危険
危険有害性情報 : 皮膚刺激
重篤な眼の損傷
呼吸器の障害

注意書き

安全対策 : 粉じん、ミスト、蒸気などを吸引しない。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしない。
適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面、保護マスクを

着用する。
 使用後は保護具をよく洗う。
 取扱い後はよく手を洗う。

救急措置

眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用して
 いて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
 直ちに医師に連絡する。

皮膚に付着した場合 : 多量の水で洗う。

皮膚刺激が生じた場合 : 医師の処置を受ける。

汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をする。

暴露または暴露の懸念がある場合

: 医師に連絡する。

保管

: 施錠して保管する。

廃棄

: 内容物や容器は関係法令に基づき適正に処理する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

: 混合物

化学名または一般名 : ソーダライム

成分及び含有量 : 水酸化カルシウム 89%
 水酸化カリウム 2%
 水酸化ナトリウム 1%
 シリカ 2%
 水分 6.0±2%

化学式(化学的性質) : 水酸化カルシウム Ca(OH)_2
 水酸化カリウム KOH
 水酸化ナトリウム NaOH
 シリカ SiO_2

官報公示整理番号

化審法 : 水酸化カルシウム (1)-181
 水酸化カリウム (1)-369
 水酸化ナトリウム 1-410
 シリカ (1)-548

安衛法 : 水酸化カルシウム 公表
 水酸化カリウム 公表
 水酸化ナトリウム 公表
 シリカ 公表

CAS No. : 水酸化カルシウム 1305-62-0
 水酸化カリウム 1310-58-3
 水酸化ナトリウム 1310-73-2
 シリカ 112926-00-8

4. 応急処置

- 吸入した場合 : 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を脱ぐこと。
皮膚を速やかに洗浄すること。多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
- 目に入った場合 : 直ちに医師に連絡すること。
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
- 予想される急性症状及び遅発性症状
- 吸入した場合 : 咽頭痛、咳、灼熱感。
- 皮膚に触れた場合 : 刺激、発赤、ざらつき、痛み、皮膚の乾燥、薬傷、水泡。
- 眼に入った場合 : 発赤、痛み、重度の薬傷。
- 飲み込んだ場合 : 灼熱感、腹痛、胃痙攣、嘔吐。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水
大火災：粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水
- 特有の危険有害性 : 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消化方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
- 消化を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
: 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。

環境に対する注意事項：河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
環境中に放出してはならない。

回収、中和：乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。

封じ込め及び浄化の方法、機材：漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。
危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策：すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の装置

取扱い

技術的対策：「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気：「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項：接触、吸入又は飲み込まないこと。
空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。

接触回避：「10. 安定性及び反応性」を参照。

保管

技術的対策：保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

混触危険物質：「10. 安定性及び反応性」を参照。

保管条件：施錠して保管すること。

容器包装材料：国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度：設定されていない。

許容濃度（暴露限界値、生物学的暴露指標）

日本産業衛生学会(2006年版)

：設定されていない。

A C G I H(2006年度版)

	: TLV-TWA 5mg/m ³ (水酸化カルシウムとして)
設備対策	: この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 高熱工程で粉じん、ヒュームが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	: 適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	: 適切な眼の保護具を着用すること。 化学飛沫用のゴーグル及び適切な顔面保護具を着用すること。 安全眼鏡を着用すること。撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用すること。
皮膚及び身体	: 適切な顔面用の保護具を着用すること。
衛生対策	: 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	: 白色の粒状
臭い	: 無臭
pH	: データなし
融点・凝固点	: データなし
沸点・初留点及び沸騰範囲	: データなし
引火点	: データなし
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度(空気=1)	: データなし
比重(密度)	: データなし
溶解度	: データなし
オクタノール/水分配係数	: データなし
自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし
臭いのしきい(閾)値	: データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	: データなし
燃焼性(固体、ガス)	: データなし
粘度	: データなし

10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 大気中で炭酸ガスを吸収する。
加熱すると分解し、酸化カルシウムを生じる。
- 危険有害反応可能性 : 酸類と反応し発熱する。強酸化剤と反応する。
水の存在下で、多くの金属を侵し、引火性/爆発性のガス(水素)を生成する。
- 避けるべき条件 : 空気との接触。加熱。
- 混触危険物質 : 強酸化剤、酸類。水の存在下で、多くの金属を侵す。
- 危険有害な分解生成物 : 酸化カルシウム
-

11. 有害性情報

- 急性毒性 : 経口：データ不足のため分類できない。
経皮：データ不足のため分類できない。
吸入(蒸気)：データ不足のため分類できない。
吸入(粉塵・ミスト)：データ不足のため分類できない。
(水酸化カルシウムとして)
ラット 経口 LD50=7340mg/kg
マウス 経口 LD50=7300mg/kg
- 皮膚腐食性・刺激性 : (水酸化カルシウムとして) 皮膚に対して刺激性がある
(区分2)
- 眼に対する重篤な損傷・刺激性 : (水酸化カルシウムとして) 重篤な眼の損傷 (区分1)
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 呼吸器感作性：データ不足のため分類できない。
皮膚感作性：データ不足のため分類できない。
- 生殖細胞変異原性 : データ不足のため分類できない。
- 発がん性 : データ不足のため分類できない。
- 生殖毒性 : データ不足のため分類できない。
- 特定標的臓器・全身毒性－単回暴露 : (水酸化カルシウムとして) 呼吸器の障害 (区分1)
ヒトの呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こす。
- 特定標的臓器・全身毒性－反復暴露 : データ不足のため分類できない
(水酸化カルシウムとして)
本物質は慢性的な経口摂取により、口腔内及び消化管への刺激による炎症性、又は潰瘍性変化を生じることがある (HSDB (Access on September 2014)) との記述、並びにラットに3ヶ月間飲水投与した試験において、肝臓、腎臓、胃に萎縮性変化、小腸に炎症がみられた (IUCLID (2000)) との記述があるが、投与量を含め詳細が不明で分類に利用できない。すなわち、データ

不足のため分類できない。

なお、本物質は米国FDAでGRAS (Generally Recognized As Safe) 物質に認定されており、添加物としての食品への通常使用においては安全性が確立している (EPA RED (2005))。また、旧分類はList 2 の情報源を基に区分2 (肺) と分類されたが、今回のList 2 の情報源 (HSDB、IUCLID) からは「呼吸器系」を標的臓器とする影響は急性ばく露影響 (ヒトで吸入により上気道の不快感、咳、胸痛、粘膜の化学性火傷、肺水腫を生じることがある (HSDB (Access on September 2014))) としては確認できたが、反復ばく露影響として分類する根拠は乏しいと判断した。

吸引性呼吸器有害性 : データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

魚毒性

: 水生毒性(急性): データ不足のため分類できない。

水生毒性(慢性): データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

: 希酸の中に徐々に加えて中和して、その溶液のpHを確認したのち、下水に流す。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

または、都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

: 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

: IMOの規定に従う。

航空規制情報

: ICAO/IATAの規定に従う。

国内規制

陸上規制情報

: 非該当

海上規制情報

: 船舶安全法の規定に従う。

特別の安全対策

: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。
他の危険物のそばに積載しない。

15. 適用法令

化学物質管理促進法 : 非該当

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第57条、施行令第18条 政令番号 第312号（シリカ）、
第316号（水酸化カリウム）、第317号（水酸化カルシウム）、
第319号（水酸化ナトリウム）

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第57条の2、施行令第18条の2 政令番号 第312号（シリカ）、
第316号（水酸化カリウム）、第317号（水酸化カルシウム）、
第319号（水酸化ナトリウム）

16. その他の情報

引用文献、参考資料

- 1) 関東化学(株) 水酸化カルシウムのMSDS(整理番号：07069)
- 2) 製品評価技術基盤機構のHP
- 3) 安全衛生情報センターのHP

* 本製品安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成されていますが、必ずしもすべての情報を網羅するものではありませんので、取扱いには充分注意してください。また、記載内容は情報提供を目的としたものであり、いかなる保証をなすものではありません。

以上